

平成 26 年度 第 1 回作井技術委員会 議事録

作井技術委員会 事務局

開催日時：平成 26 年 9 月 16 日(火) 15:00～17:30

開催場所：石油資源開発(株)1902 & 1903 (19 階) 会議室

出席者： 武村委員長、戸田、池田、浦野、田村、尾上、長縄、前田、稲田、廣島、坂井、伊木、藤田、大門、清水(菊池 代理)、長久保、石黒、小川、高橋、木崎、遠藤、根本、五十嵐、岡本、板倉、岩本、鷲野、片岡 計 28 名(欠席 9 名)

◇15:00 ～ 16:15:作井技術委員会

議題 1:平成 25 年度(平成 26 年度春季講演会まで)の活動実績概要一報告

- 1) 年間活動実績(委員会、運営幹事会、異業種との情報交換会、春季講演会シンポジウム準備チーム会合)
 - 異業種との情報交換会は、第2回会合で作井サイドのニーズを伝え終了した。会で得たコネクションを活かし情報を入手して製品開発に活かす等の成果も出ているとの報告があった。石油技術協会に参加していない異業種に今後当業界の情報をどのように発信していけば良いかという議論の中で、協会員以外でも協会誌に論文が投稿できるようなれば交流が深まるのではという意見も出た。
- 2) 決算報告
 - 委員からの異論はなし。

議題 2:平成 26 年度春季講演会の総括一報告および討議

- 1) シンポジウムと個人講演(概要レビュー:公演数、時間配分、聴衆者の数等)
 - 個人講演は 18 講演。聴衆者数は、シンポジウム 83 名(AM), 71 名(PM)、個人講演 110 名(AM), 98 名(PM)であったことを報告。
- 2) 学生優秀発表賞(「設定した方向へのき裂造成による最大水平地圧の直接的推定」)
- 3) 協会誌投稿推薦個人講演ー運営幹事会選定 5 講演の紹介、委員の意見聴取
 - 3 件からは投稿するとの返事をもたらしているが、2 件は現時点で返答なし。
 - 5 件以外に委員から要望があれば追加で推薦するので事務局へ連絡願う。
- 4) シンポジウム講演の協会誌掲載原稿の執筆状況、掲載予定
 - 全ての原稿は提出されており、現在査読中。9 月中には査読を終了し、11 月発行の刊に掲載できるようにする予定。
- 5) 来年度春季講演会運営での改善点について意見交換(個人講演の分類・件数、シンポジウム討論会、時間配分等)
 - 委員から以下の要望、アイデアが出た。今後運営幹事会で検討する。
 - ・ 時間制限で質疑応答が途中で止められないよう、時間に余裕を持たせるべき。
 - ・ 従来方式パネルディスカッションの廃止(シンポジウムテーマを決めてあるとはいえ各社のシンポジウム講演者をパネラーにしたディスカッションでは突っ込んだ議論をするには限界がある)
 - ・ 講演後、発表者毎に少人数に分かれての自由討論(100 人近い参加者が一度に

討論する形では意見を述べられない人もいる。全員参加で意見交換出来る環境を作れないか)

議題 3: 作井技術委員会活動方針一審議および承認

- 1) 平成 26 年度活動方針(案)
 - HSQE 分科会廃止について報告、委員の承認を得た。
- 2) 年間スケジュール(案)
 - 委員の承認を得た。秋季講演会について協会幹事から補足説明あり。
 - 平成 27 年度春季講演会シンポジウムテーマについて、検討状況を報告。
- 3) 予算(案)
 - 委員の承認を得た。

議題 4: 分科会活動一報告

- 1) 大水深掘削技術分科会
 - 7/25 に第 18 回会合を開催し、OTC 参加報告および IADC/SPE 文献報告がなされた。17 名の出席であった。
 - 開催実績は年 1~2 回程度であるが、今後頻度を増やすことを検討している。
 - 現状、分科会メンバー以外も参加可能であり、参加人数に制限は設けていない。多くの若手が交流できる場になればとの話があった。

議題 5: 理事会報告

- 平成 27 年度春季講演会の日程(6 月 9~11 日、代々木)を報告。

議題 6: その他一委員から意見や発言を募り、討議

- 分科会にとらわれず、若手の勉強のために大学等の助けも借りて、相互に話題・情報提供できる交流の場を設けられないか検討していく。

◇16:30 ~ 17:30: 特別講演

演題:「安全体感教育について」

講演者: 日鉄住金マネジメント(株) 相馬 正幸 様

- 「百見は一感にしかず」という考えのもと、実際の危険作業を体感してもらうことで、普段行っている作業中に潜む危険への“気づき”を養う教育を目的としている。発表では施設内で実際に行われている体験内容(高所、電気、回転体等)の詳細について講師から説明を頂いた。

以上